

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: 福島県における「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」追跡期間の課題と取り組み

和文タイトル: 福島県における「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」追跡期間の課題と取り組み

ユニットセンター(UC)等名: 福島UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: 福島県保健衛生雑誌

年: 2018 月: 3 巻: 31 頁: 25-31

筆頭著者名: 佐藤 晶子

所属UC名: 福島UC

目的: エコチル調査追跡期間の福島ユニットセンターの現参加者数と回収率の維持を目的とした取り組みと現状を報告する。

方法: 現参加者数および回収率の維持を目的とし、質問票未返送の方への返送依頼、郵便物郵送先の確認、調査でわかったことやお知らせをお伝えするニュースレターの発行、県内各地で子どもの成長・発達段階に合わせた内容で開催する小規模イベント、育児相談、参加者を含む一般の方々への広報などの取り組みを行った。

結果: 福島ユニットセンターの現参加者数は、平成29年12月末現在で出生数に対して97.3%、発送後6か月以上経過した質問票の回収率は、およそ80%である。小規模イベント参加者を対象としたアンケートでは、エコチル調査に参加する主な理由として、「自分の子どもの健康を見守ってもらえるため」、「未来の子育ての環境をよくするため」、「自分の子どもの成長や発達を振り替える良い機会だから」、「調査や検査の結果が返ってくるので参考になる」と回答した人は、それぞれのべ75件、71件、70件、65件であった。

考察:(研究の限界を含める)

コホート研究では、参加者数が減少する主な原因は、連絡がつかなくなることと協力をやめたいと希望することである。福島ユニットセンターでは、取り組みにより連絡がつかなくなる事例はわずかである。一方で、多忙を理由に協力をやめたいと希望される事例が増加している。生活様式の変化があった場合でも、出来る限り多くの方に負担なく調査を継続していただけるように対応することが求められている。質問票回収率の維持とコミュニケーションについては、一般に調査で望まれる回収率より高い割合を維持しているが、取り組みを行っても減少傾向にあり、今後の課題である。

結論: 本報告では、現参加者数および質問票回収率とエコチル調査や福島ユニットセンターでの取り組みについての因果関係は分析していない。しかし、先行研究から、取り組みが効果的であったと推測された。